

切れ目のないキャリア形成支援がカギ



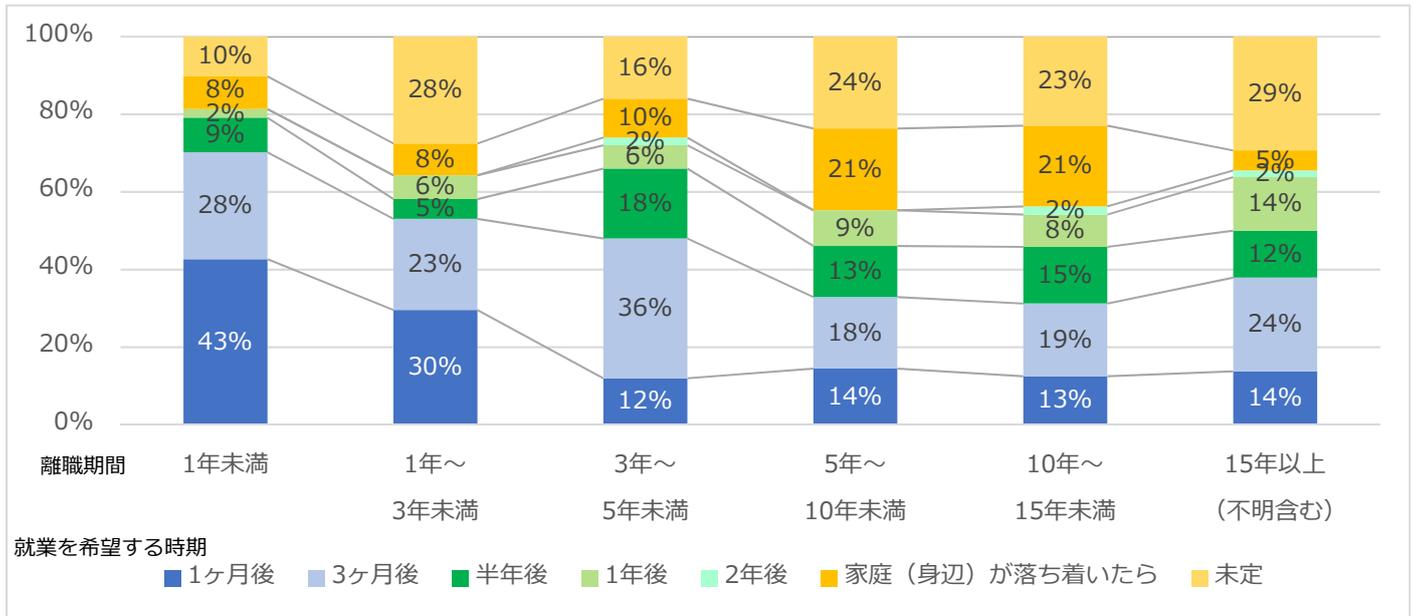
看護師確保の
ヒントご提案

令和5年度就業意向調査アンケート集計結果より

eナースセンターに登録のある看護職を対象に実施した「就業意向調査アンケート」で、看護職として再就業したいと回答した未就業者 555 人の希望する就業時期は以下のとおりで、離職期間が長くなるほど、「家庭（身辺）が落ち着いたなら」「未定」の割合が増え、就業希望時期が決められないことがわかります（就業意欲の低下）。

就業時期と離職期間

n=555

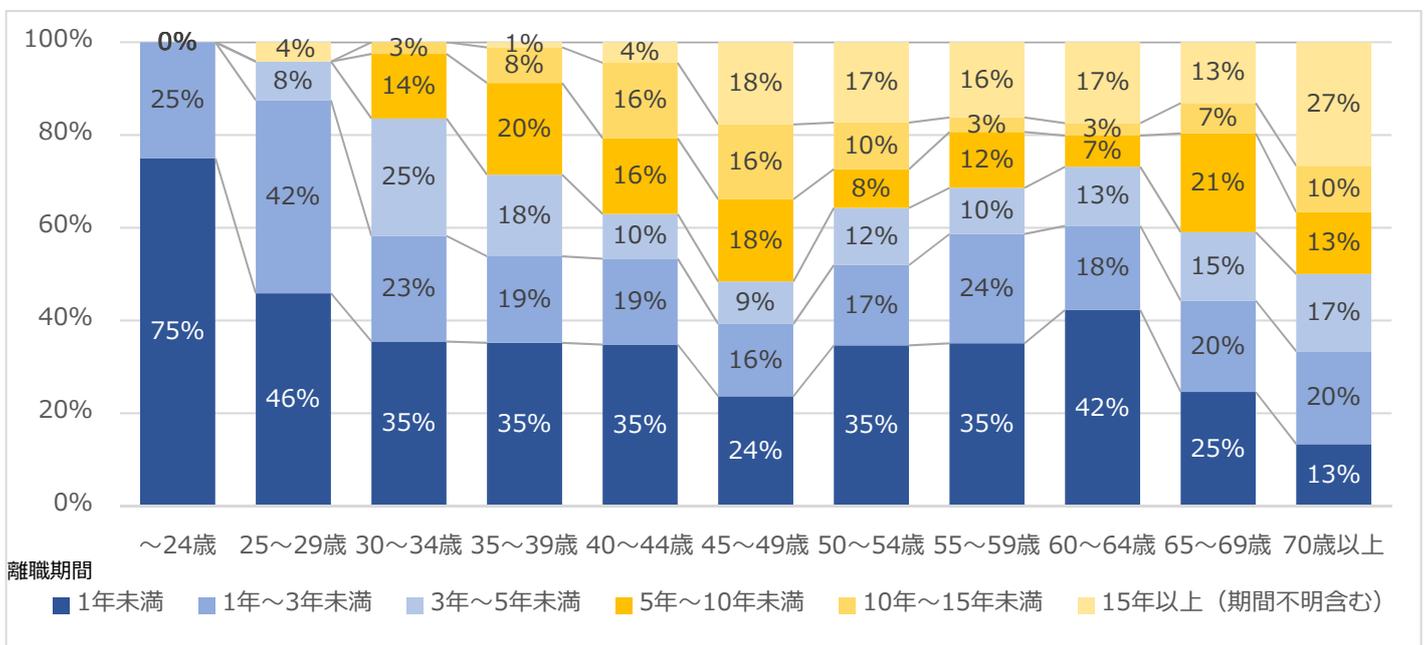


また、同アンケートで「看護職以外の職種で働きたい」「仕事はしない」「わからない」と回答した 872 人が挙げた理由の上位は「看護の知識・技術に不安がある」が 210 件（24.1%）、「責任が重い・医療事故が不安」が 188 件（21.6%）、「ブランクがあることによる不安」が 177 件（20.3%）となっています。

さらに、看護職として就業していない登録者 1,129 人に離職期間を訪ねたところ、30代では「3年～5年未満」、30代後半～40代では「5年～10年未満」の割合が、他の年代に比べ高くなる傾向が見られました。出産・育児などのライフイベントで離職した後、復職の機会を逃すと離職期間が延びると考えられます。

年代別離職期間

n=1,129

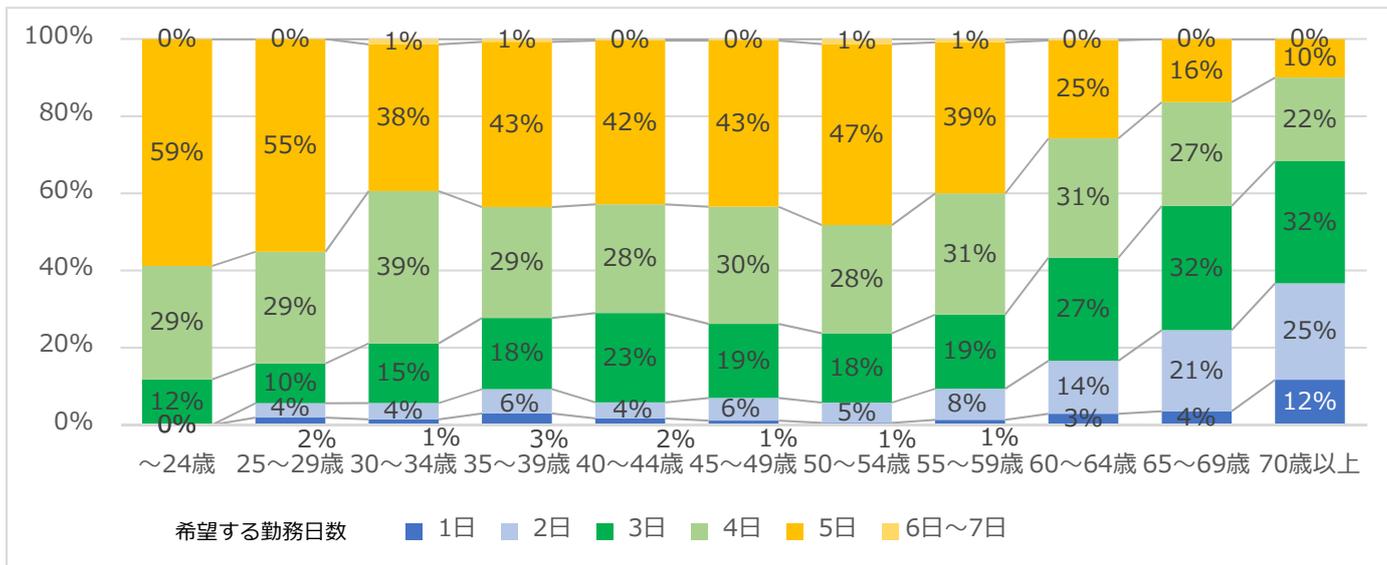


＼無理のない勤務で看護の知識・技術の維持／ 看護職の潜在化予防で人材確保をしませんか？

e ナースセンターに登録のある看護職に希望する勤務日数を質問したところ、20代では5割を超える週5勤務も、30代以降の「子育て世代」では、その割合が減少し、週3日～4日勤務を希望する割合が増え、さらに「定年を迎える世代」では週1日～2日の割合が増える傾向がみられます。

希望する勤務日数

n=4,047



出産、育児、介護、定年などを理由に離職した看護職が、「看護の知識・技術」や「ブランク」による不安を抱くことなく、職場復帰、あるいは就業継続できるよう、週3~4日程度の日数で無理なく勤務できる雇用形態や制度を整備してはいかがでしょうか？

無理なく継続できれば、潜在化することなく人材の確保・定着につながります。



設置主体  東京都 運営受託者: 公益社団法人 東京都看護協会
東京都ナースプラザ (<http://www.np-tokyo.jp>)

東京都新宿区西新宿4-2-19
TEL 03-5309-2063(代表 庶務係)

 Instagram 東京都ナースプラザ公式 Instagram #tokyo.nurseplaza

ぜひフォローをお願いします